

愛知県感染症情報

2009年7週(2月2週 2/9~2/15)

愛知県感染症情報センター(愛知県衛生研究所内)

<http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/kansen.html>

E-mail: eiseiken@pref.aichi.lg.jp

連絡先: 052-910-5619(企画情報部)

AICHI Infectious Diseases Weekly Report

今週の内容

トピックス

子ども予防接種週間
インフルエンザ(警報発令中)
集団かぜの発生について(第28~29報)
病原体検出情報
定点医療機関コメント
インフルエンザ、感染性胃腸炎、流行性耳下腺炎、水痘等
全数把握感染症発生状況()内は件数。
結核(24)、腸管出血性大腸菌感染症(2)、レジオネラ症(1)、アメーバ赤痢(1)、後天性免疫不全症候群(4)、風しん(1)

名古屋市感染症情報(2月前半)

WHO 疫学週報抄訳

2009年1月30日(84巻5号)

ワクチン安全性に関する世界助言委員会; ロタウイルスワクチンとパピローマワクチン

2009年2月6日(84巻6号)

レプトスピラ症; マニラにおける会議

ブルリ潰瘍; 西アフリカ4か国

定点把握感染症報告数(保健所別、年齢別)

「グラフ総覧」は <http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/2f/graph.pdf> をご覧ください。

トピックス

子ども予防接種週間 - 2月28日(土)~3月8日(日) -

4月からの入園・入学に備えて、麻しん・風しんなど必要な予防接種をすませ、病気を未然に防ぎましょう

また、現在、中学1年生、高校3年生に相当する年齢で、2回目の麻しん・風しんの予防接種をまだ受けていない方も、是非この機会に受けましょう

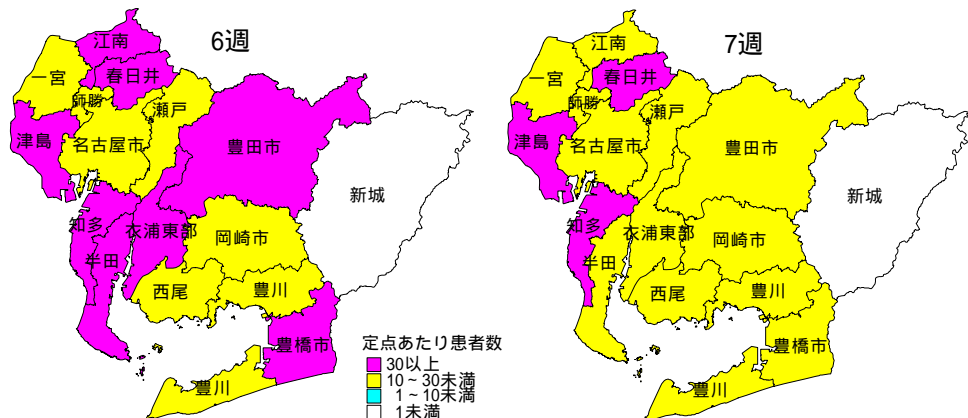
【参考ページ】

- 1) 麻しん・風しんの予防接種方法が変わりました http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/2f/hi_4.html
- 2) 子ども予防接種週間(日本医師会のページ) <http://www.med.or.jp/vaccine/>
- 3) 予防接種について(健康対策課) <http://www.pref.aichi.jp/0000017989.html>

インフルエンザ(警報発令中)

愛知県全体の定点あたり報告数は19.5人、前週比0.7倍(5,605人、3,796人)です。

(図 保健所別定点あたり患者報告数)



【参考ページ】

- 1) “インフルエンザ警報”を発令します!!(健康対策課・1月22日発表) <http://www.pref.aichi.jp/0000021925.html>
- 2) 2008/09シーズンインフルエンザ発生状況(保健所別・週別) http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/2f/infllu_map.html
- 3) 2008/09シーズンインフルエンザウイルス分離状況 http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/67f/infbunri08_09.html

集団かぜの発生について(健康対策課発表)

	発表	集団発生施設の管轄保健所	URL
第28報	2月16日	一宮、瀬戸	http://www.pref.aichi.jp/0000012549.html
第29報	2月17日	瀬戸、津島	http://www.pref.aichi.jp/0000022701.html

平成 20 年 7 月以降の発症者、インフルエンザは 2008 / 2009 シーズンの検査結果です。

	感染性胃腸炎	手足口病	ヘルパンギーナ	咽頭結膜熱	流行性角結膜炎	無菌性髄膜炎	脳炎 脳症	インフルエンザ
患者数	244	57	55	15	13	36	11	143
PV-1	1							
PV-3	3							
CV-A2			10					
CV-A4		2	12			1	1	
CV-A6			3					
CV-A10			5					
CV-A16		38	3				1	
EV-71		1						
CV-A9				1				
CV-B1	1		1			3	1	
CV-B3	1					1		
CV-B4			2			1		
CV-B5	3					2		
E-5						1		
E-6	1							
E-11	1		1				1	
E-30	1	2		1		10		
HPeV-1	4							
HPeV-3		1					1	
FluAH1								76
FluAH3								33
FluB								1
MuV						1		
NV-G	51							
SV	1							
Ad-1	1							
Ad-2	1		1					
Ad-3	6			8			1	
Ad-4				2				
Ad-5	2					1		
Ad-6	2							
Ad-11								
Ad-41	4							
検査中	67	3	2	1	6	4	1	20
陰性	98	10	15	3	7	11	4	13

略: ウイルス名(他の略名)

Ad : アデノウイルス	FluAH1 : A ソ連型インフルエンザウイルス	MuV : ムンプスウイルス
CV : コクサッキーウイルス	FluAH3 : A 香港型インフルエンザウイルス	NV : ノロウイルス
E : エコーウイルス	FluB : B 型インフルエンザウイルス	PV : ポリオウイルス
EV-71 : エンテロウイルス 71	HPeV : ヒトパレコウイルス	SV : サボウイルス

関連ページ

1) 「疾患別ウイルス検出情報」

<http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/67f/prompt.html>

2) 「2008/09 シーズンインフルエンザウイルス分離状況」

http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/67f/infbunri08_09.html

定点医療機関コメント（名古屋市除く）

尾張西部地区

インフルエンザ減ってきました（A型15人、B型1人）

インフルエンザ罹患後アレルギー性紫斑病の発症あり

感染性胃腸炎少し目立ってきました

【一宮市 あさのこどもクリニック】

アデノウイルス感染症 1歳女

【一宮市 後藤小児科医院】

ロタウイルス 1歳男、4歳男

リレンザ無効のインフルエンザ 6歳女

【一宮市 ささい小児科】

インフルエンザ84名（A型81名、B型3名）

【一宮市 一宮市立市民病院】

インフルエンザ減少してきました。

大人の溶連菌感染が目立ちます。

【犬山市 武内医院】

インフルエンザ減少してきました。23名（A型17名、B型6名。）

溶連菌感染症、感染性胃腸炎がやや目立ちます。

【江南市 みやぐちこどもクリニック】

水痘、ムンプス、続発中。

インフルエンザ57例と減少。2回目のA型が2例あり。

【岩倉市 医療法人なかよしこどもクリニック】

インフルエンザA型まだ多いです。

【扶桑町 いずみ内科】

ロタウイルス 1歳男 2人。1歳女1人。

インフルエンザが再び増えて参りました。何れもA型です。

【春日町 丹羽医院】

インフルエンザA型 14人。

インフルエンザB型 1人。

【北名古屋市 田中クリニック】

インフルエンザA型34名。

【津島市 医療法人参育会加藤医院】

尾張東部地区

A型インフルエンザは少なくなりました。（ワクチン済み21%）

流行性耳下腺炎がみられます。

【瀬戸市 津田こどもクリニック】

インフルエンザ29名（すべてA型）今週は少し増加しました。

溶連菌感染症と感染性胃腸炎が再び増加してきたようです。

その他突発疹、流行性耳下腺炎等。

【尾張旭市 医療法人誠和会佐伯小児科医院】
5歳男、24歳女、A型インフルエンザ2名

【豊明市 豊明団地診療所】

インフルエンザ感染症が依然続いています。

【春日井市 春日井市民病院】

A型インフルエンザ28例。

B型インフルエンザ1例。

感染性胃腸炎続発中。

【春日井市 朝宮こどもクリニック】

インフルエンザは下火のようです。

かわりに胃腸炎が微増してきております。

【春日井市 かがわこどもクリニック】

インフルエンザA型103名。

インフルエンザB型2名。

【春日井市 医療法人聡彩会片山こどもクリニック】

インフルエンザは減少傾向です。

ロタウイルス胃腸炎が増加してきました。

【小牧市 志水こどもクリニック】

インフルエンザA型 男10名、女8名。

感染性胃腸炎が多いです。

【小牧市 医療法人心正会鈴木小児科】

インフルエンザは減少傾向。

ロタ腸炎の割合が増加してきました。

【小牧市 小牧市民病院】

インフルエンザA9名、インフルエンザB2名

【半田市 医療法人林医院】

インフルエンザA型37名、B型3名 減少傾向です。

【半田市 半田市立半田病院】

A型43名

【半田市 医療法人敬おっかわこどもクリニック】

インフルエンザ11名（A型8名、B型3名）

【南知多町 医療法人大岩医院】

ヘルペス性歯肉口内炎1歳女

マイコプラズマ感染症相変わらず多い

インフルエンザB型が増えてきた。

【美浜町 厚生連知多厚生病院】

ロタウイルス（+）6か月男 1名

ロタウイルス（+）7か月女 1名

ロタウイルス（+）1歳女 1名

【東海市 東海市民病院】

インフルエンザ A型14名 B型8名

ヘルパンギーナ 1名

【東海市 もしもしこどもクリニック】

インフルエンザB型1名のみ（27歳女）

【東海市 こいで内科医院】

8歳女 インフルエンザB型

9歳男 インフルエンザB型

1歳男 インフルエンザB型

4歳女 病原大腸菌O15（+）

【大府市 まえはらこどもクリニック】

西三河地区

インフルエンザA型 34名
StrepA(+) 9名
ロタウイルス腸炎 2歳男
E. coli(O25) 1歳女
【豊田市 星ヶ丘たなかこどもクリニック】
インフルエンザA型 17名
インフルエンザB型 1名
【豊田市 田中小児科医院】
インフルエンザA型 10名
インフルエンザB型 1名
【豊田市 すくすくこどもクリニック】
インフルエンザA型 5名
【豊田市 足助病院】
インフルエンザは、すべてA型です。
【岡崎市 医療法人深田小児科】
水痘が少し増加
インフルエンザ 19例中 1例B型、他はA型
でした。
【岡崎市 花田こどもクリニック】
インフルエンザ減少傾向です。全てA型、ワ
クチン接種者は38%、今期2回目2名(2回と
もA型)。
その他特記すべきことはありません。
【岡崎市 竜美ヶ丘小児科】
インフルエンザA型 11人
インフルエンザB型 1人
1歳女 病原性大腸菌O1(+)VT(-)
2歳女 カンピロバクター
【岡崎市 にいのみ小児科】

8歳女、4歳男 マイコプラズマ肺炎
9か月女 病原大腸菌O18
インフルエンザは、すべてA型、ピークは過
ぎたようです。
【岡崎市 医療法人川島小児科水野医院】
インフルエンザ全てA型
【岡崎市 医療法人志貴こどもクリニック】
インフルエンザ 11名全てA型(予防接種済6
名、予防接種未5名)
【岡崎市 栗屋医院】
インフルエンザは、すべてA型、減少傾向です。
【岡崎市 医療法人永坂内科医院】
ロタウイルス胃腸炎増加。
インフルエンザ減ってきました。
【碧南市 永井小児クリニック】
インフルエンザB2名 あとはA型。
ロタ腸炎 4名(1歳3名、3歳1名)
【刈谷市 田和小児科医院】
インフルエンザ 21名
アデノウイルス 1名
ロタウイルス 2名
ムンプス 11名
【知立市 宮谷クリニック】
インフルエンザ患者が急速に減りました。
【三好町 三好町民病院】
ロタウイルス陽性が多くみられます。
【三好町 三好丘こどもクリニック】
インフルエンザは少なくなりました。
嘔吐がやや増加。
【西尾市 やすい小児科】
インフルエンザ全てA型(26人)で、減少傾
向です。
【西尾市 山岸クリニック】

東三河地区

ロタウイルス性腸炎 11名
アデノ扁桃炎 2名
【豊橋市 マミーローズクリニック】
インフルエンザ流行中(A型54名 B型11名)
インフルエンザB型が増えてきました。
【豊橋市 医療法人こどもの国大谷小児科】
インフルエンザは横這い B型が52%を占
めています。
【豊橋市 医療法人野村小児科】
インフルエンザA型 10名
【豊橋市 おだかの医院】

インフルエンザはA型54名、B型10名、A
B同時陽性1名の計65名でした(5か月から62
歳)。B型の9名が前週と同じ小学校でした。
【豊橋市 医療法人羽柴クリニック】
47件中1件Bです。
【豊川市 豊川市民病院】
E. coli(O86a) 1歳女
E. coli(O25) 7歳男
【豊川市 ささき小児科】

全数把握感染症発生状況（愛知県全体・保健所受理週別）2009年2月18日現在

一～三類感染症

<関連リンク> 届出基準 <http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/2f/todokedekijun080512.pdf>

結核（二類感染症）

報告保健所	2009年7週報告数			2009年累計(1～7週)		
	総数	喀痰塗抹検査陽性者数再掲	無症状病原体保有者再掲	総数	喀痰塗抹検査陽性者数再掲	無症状病原体保有者再掲
名古屋市(16保健所合計)	16	5	2	95	26	17
豊田市				12	5	1
豊橋市				8	1	
岡崎市	1			7	2	1
一宮	1			20	7	1
瀬戸				8	2	
半田						
春日井	2	1	1	14	6	3
豊川				5	3	
津島				8	1	2
西尾				3	1	
江南	2		1	14	3	5
新城				2	1	
知多				7	1	3
師勝						
衣浦東部	2			11	6	
合計	24	6	4	214	65	33

腸管出血性大腸菌感染症（三類感染症）

番号	報告保健所	年齢	性別	発病月日	初診月日	診定月日	備考
1	名古屋市	3歳	女	2/3	2/5	2/9	O157、VT2(+)
2	津島	53歳	女	-/-	2/12	2/13	O119、VT1(+) 無症状病原体保有者

四類・五類感染症（全数把握）（推定感染経路、推定感染地域は確定も含む）

レジオネラ症（四類感染症）

番号	報告保健所	年齢	性別	病型	推定感染地域
1	岡崎市	57歳	男	肺炎型	国内

アメーバ赤痢（五類感染症）

番号	報告保健所	年齢	性別	病型	推定感染経路	推定感染地域
1	名古屋市	44歳	男	腸管アメーバ症	不明	国内

後天性免疫不全症候群（五類感染症）

番号	報告保健所	年齢	性別	病型	推定感染経路	推定感染地域
1	名古屋市	36歳	男	AIDS	性的接触	国内
2	豊橋市	24歳	男	無症候性キャリア	性的接触	国内
3	豊橋市	20歳	男	無症候性キャリア	性的接触	国内
4	衣浦東部	23歳	男	無症候性キャリア	性的接触	国内

風しん（五類感染症）

番号	報告保健所	年齢	性別	予防接種歴	推定感染地域
1	豊田市	28歳	男	不明	国内

幾日かとても暖かい日が続いて、可愛がっている梅(向かいの小父さんがいつか言いました。「先生の梅は盆栽ではなくて鉢植えだ」。どなたか盆栽と鉢植えの区別のガイドラインをご教示ください)がほころびかけたと思ったら、この数日凍えるような寒さで震え上がっています。体調を崩さないように気をつけなくては。いつも貴重な情報を有難うございます。2月前半のまとめをお送りします。

名鉄病院福田先生からインフルエンザ(A型)が非常に多くなりロタウイルス感染症も多増傾向、RSウイルス感染症は比較的少なく散発的に経験するのみでこの時期としてはアデノウイルス感染症が多い印象で典型的な咽頭結膜熱も認め、入院ではロタウイルス腸炎の重症例が急増、次いでインフルエンザの重症例、マイコプラズマ等の気管支炎・肺炎が目立つ、城北病院渡辺先生からは時間外外来はインフルエンザを診断してほしい旨の患者さんが多く発熱があまりなくても家族に患者がいるケースで陽性になるケースが多く、平日の外来患者はインフルエンザ以外、嘔吐下痢を含め患者は少なく、入院患者ではインフルエンザで痙攣合併例が多く、インフルエンザ以外の感染症は少ない、第二日赤岩佐先生からはロタ腸炎による入院増加、インフルエンザAの入院もいるがピークは過ぎた感じ、三菱病院入山先生からはロタウイルス腸炎を含む感染性胃腸炎9名と目立ち、1名入院(1歳、ロタ+病原性大腸菌O19)、A型インフルエンザ7名、咽頭アデノウイルス感染症1名、A群溶連菌咽頭炎1名、気管支炎~気管支肺炎4名入院(マイコ含む)、咽頭炎の兄弟例の2名入院、うち1名は熱性痙攣合併、中部労災病院山田先生からはインフルエンザA型は減少傾向、タミフル耐性と思われる症例あり、ロタウイルス感染症は少なく、溶連菌感染症あり、入院ではマイコプラズマ肺炎が目立ち、生後2ヶ月のインフルエンザA感染入院例あり、大同病院水野先生からはインフルエンザが増加、ロタ陽性腸炎も増加しているがRS肺炎もいて、RS+インフルエンザの混合感染もあり、入院ではロタウイルス腸炎が目立ち、痙攣で入院する子が非常に多く原因はインフルエンザ、ロタ、RSなど様々で、ワクチン接種2回したのにインフルエンザ脳症入院例あり、とのお手紙でした。有難うございました。

2009年1月30日(84巻5号) <http://www.who.int/wer/2009/wer8405/en/index.html>

ワクチン安全性に関する世界助言委員会(Global Advisory Committee on Vaccine Safety, GACVS) 専門家委員会。08年12月17~18日、WHO本部。

ロタウイルスワクチンと人パピローマウイルス(HPV)ワクチンの安全性を検討し助言。

- (1)ロタウイルスワクチン: 米国を含むいくつかの国で認可されている経口生ワクチンのロタテック、ロタリックスについて認可後の腸重積合併頻度の報告が検討された結果、ロタウイルスワクチンと腸重積発病は無関係という結果が得られた。米国CDCの最近2年間のワクチン副反応報告システムによれば1,400万人を超えるロタテック接種者の腸重積発症者は267名でワクチン接種による増加は認められず、ロタリックスについてもラテンアメリカ主体の接種調査で3,200万人接種後30日以内の腸重積発症者は106名、一般バックグラウンド集団と差は認められなかった。オーストラリアにおける06年10月の先住民、07年7月の全国接種試験においても腸重積は無関係であった。ロタワクチンとして最初に認可されたロタシールドが腸重積合併問題で中止されて以来、ロタワクチンと腸重積の関連が安全性から問題になっているが今回GACVSはロタテック、ロタリックス共に腸重積との関係は否定的である。ただし今後の追跡調査が重要、と提言している。
- (2)HPVワクチン安全性: 07年6月のGACVSで認可前の接種試験報告から安全性、有効性共に良好であることが認められ、認可後いくつかの国で接種が進められているがその後、副反応報告・報道があり、この内容について検討された。内容は接種後の失神。過敏性・アレルギー、脱髄疾患、である。注意深い調査の結果、いずれも一般人口当たりの発症数と差がないことが認められ

た。例えばオーストラリアからの報告で接種後 30 分以内にアナフィラキシーをおこしたのは 26 万 4 千接種で 7 例、いずれも重症後遺症なし、他の学校単位の調査でも差はなかった。また、脱髄疾患発生は一般人口における発生数と差は認められなかった。

- (3) ワクチン安全警報：以下報告あり(報告だけ)。インドで麻疹ワクチン接種後死亡例が 3 集団事例。スリランカで DTP・B 肝・Hib 5 混ワクチン接種後死亡例 1 集団事例、ラオスで DTP・B 肝・OPV 接種後死亡単発例、ウクライナで死亡 1 例を含む MR 接種後の副作用集団事例報告。
- (4) GACVS のサブグループとして 4 小委員会が活動中： 免疫不全とワクチン。 ワクチン副反応の世界的監視。 ワクチン組成の安全性。 インフルエンザワクチン安全性。

2009 年 2 月 6 日 (84 巻 6 号) <http://www.who.int/wer/2009/wer8406/en/index.html>

レプトスピラ症(以下レ症) 科学的会議。フィリピン・マニラ。08 年 11 月。

フィリピン大学と九州大学の合同で ワクチン開発、 検査室診断、 予防と対策、を話題として 会議開催、 フィリピンを含むアジア太平洋地区の現状と対策を討議。

- (1) 背景：主としてネズミが保有する世界的に分布している細菌感染症。ネズミとの直接の接触以外に排泄物に汚染された水、土壌 = 特に洪水などの災害時・災害後(注：先日のミャンマーの大洪水) 汚染食品で感染。多くは無症状感染であるが、重症感染では罹患死亡率は 20%に及んでいる。アジア太平洋地区では途上国中心に広く分布(注：日本では黄疸と出血をきたす重症感染(ワイル病) と軽い発熱発疹(秋やみ)として広く知られている) 有効なワクチンが中国、日本、ベトナムで開発され入手可能。重要なのは洪水に襲われたとき・洪水後の集団発生である。
- (2) 会議の目標：アジア太平洋地区におけるこれまでの報告の再検討。レ症の情報・教育・報道材料のガイドライン作成。フィリピンにおける国家的疾病負担研究指針など。
- (3) 活動のまとめ： 98~01 年、02~07 年におけるフィリピンの状況報告、 フィリピン分離株検索、 アジア太平洋地区諸国用ガイドライン作成。
- (4) 結語と提言： フィリピンにおける調査はフィリピン大学がすること、「アジア太平洋地区におけるレ症概観」という文書を出版すること、 病原体の分子生物学的検査手法を導入すること、 ワクチン開発、特にフィリピンで流行中の株に対するワクチン開発の努力をすること。

ブルリ潰瘍。西アフリカ第 1 回会議

(注：ブルリ潰瘍 = 抗酸菌の *Mycobacterium ulcerans* 感染症。高温多湿の土壌などに常在。皮膚感染症。皮膚病変が進むと筋肉から骨に及ぶ深い潰瘍を形成。機能障害発生。抗結核剤有効。風土病的土着性著明。通称熱帯潰瘍として第二次大戦中軍医諸先輩に知られていた) 08 年 10 月 21~23 日。WHO、カーターセンター、ベニン政府が共同でベニン首都・コトヌーで開催。ブルリ潰瘍が高度に土着している西アフリカのベニン、象牙海岸、ガーナ、トーゴの 4 カ国代表による報告、検討。ナイジェリアがオブザーバー出席。

- (1) ベニン：NGO の支援を受け、政府施策としてハンセン病対策と合同で 97~07 年実施。03 年までは外科的治療、04 年から抗生剤導入。ブルリ潰瘍センターで治療。
- (2) 象牙海岸：西アフリカ最大の発生国。年間新規患者発生数は 2,000 名をこえている。07 年には 2,191 例が 22 保健地域から報告。その 73.4%が潰瘍形成。抗生剤による治療が NGO の支援で実施中。
- (3) ガーナ：アシャンティ州を中心に南部で発生。07 年には 22 州から 676 新規例が報告。WHO 作戦に従った対策実施中。05~07 年、最も多発しているアマンシェ地区における担当者訓練の実績が発表された(表あり)。
- (4) ナイジェリア：1970 年代は毎年報告されていたがその後 2006 年まで報告ゼロ。06 年の調査で患者発見、ベニンのセンターに依頼。09 年全国調査と担当者教育発足。ハンセン病対策と共同して実施。
- (5) トーゴ：99 年から国家計画開始。04 年全国調査で約 800 名。その後も状況は好転していないが NGO の支援で 5 年計画立案開始・履行。
- (6) 結語と提言：4 カ国の状況がまとめられ(表あり)、WHO・NGO に対する提言がまとめられた(詳細略)。

愛知県感染症情報

2009年7週(2009年2月9日～2009年2月15日)

愛知県衛生研究所

		定点数																							
愛知県		インフルエンザ	小児科	眼科	STD	基幹	RSウイルス感染症	インフルエンザ (鳥インフルエンザ及び新型インフル エンザ等感染症を除く。)	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎 (オウム病を除く。)	
愛知県 (名古屋市を含む)		195	182	35	52	17	15	3,796	34	280	1,372	245	16	3	105	5	3	120	0	4	0	0	4	0	
総数 (名古屋市は除く)		125	112	24	37	12	13	2,977	25	194	923	211	12	3	80	5	3	93	0	2	0	0	3	0	
名古屋	名古屋市	70	70	11	15	5	2	819	9	86	449	34	4		25			27		2			1		
尾張東部	瀬戸	9	9	2	3	1	2	185	2	28	43	10			7			7					1		
海部津島	津島	7	7	2	2	1		213	1	15	105	13			2			2							
尾張中部	師勝	4	4	1	1			82			22	3	1		1			2							
尾張西部	一宮	16	12	3	4	1	1	209	2	17	42	12	3		5		1	4							
尾張北部	春日井	9	9	2	3	1	2	426	5	14	87	18		1	7	1	1	2					1		
	江南	6	6	1	2			150	4	19	63	13	1		12			5		1					
知多半島	半田	6	6	1	2	1	1	150	1	6	78	11	1		7	3		3							
	知多	7	7	2	2			210		3	35	9			1		1	1							
西三河南部	岡崎市	11	7	2	2	1		188	1	15	28	28			11			21							
	衣浦東部	13	13	2	4	1	7	348	4	30	120	36	2		11	1		28		1					
	西尾	5	5	1	2	1		65		2	49	16			2			5							
西三河北部	豊田市	9	9	2	4	1		214		27	41	15	1	2	6			9					1		
東三河南部	豊橋市	12	8	2	4	1		339		6	124	13	2		4			3							
	豊川	9	8	1	2	1		187	5	12	86	14	1		4										
東三河北部	新城	2	2			1		11										1							

愛知県感染症情報

2009年7週(2009年2月9日～2009年2月15日)

愛知県衛生研究所

年齢階層 (名古屋市を除く)	RSウイルス感染症	インフルエンザ (鳥インフルエンザ及び エンザ等感染症を除く。)	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎 (オウム病を除く。)
計	13	2,977	25	194	923	211	12	3	80	5	3	93	0	2	0	0	3	0
～6ヶ月	3	16			18	1			1									
～12ヶ月	4	46			63	12	2		41									
0歳																		
1歳	5	158	4	3	165	30	5		36	1	1							
2歳		137	3	10	105	37	3		2	1	1	11						
3歳	1	176	4	23	70	32	2					8					1	
4歳		302	5	29	85	38		1				13		1			1	
5歳		263	3	40	71	23		1				24						
6歳		260	3	36	50	16						16						
7歳		191	1	11	26	6						9						
8歳		157	1	12	27	5		1				7						
9歳		129		8	23	2						2						
5歳～9歳																		
10歳～14歳		366	1	14	57	4						2						
15歳～19歳		90		1	14												1	
20歳～				7	149	5				3	1	1						
20歳～29歳		191												1				
30歳～39歳		246																
40歳～49歳		121																
50歳～59歳		66																
60歳～69歳		27																
70歳～																		
70歳～79歳		21																
80歳以上		14																

*鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く